

“新幹線” と “まちづくり”

新幹線講座

－ 新幹線を活かしたまちづくりを考える市民集会 －

開催記録

（意見交換・アンケート結果）

2018年12月

“新幹線” と “まちづくり”

新幹線講座

入場無料



小浜の未来をつくるのは私たちです

1限目

プロに聞く!

新幹線は小浜を
どう変えるのか

青森大学教授、
地域ジャーナリスト
柳引 素夫 氏

2限目

実践者から学ぶ!

新幹線駅前
コンテナ商店街の挑戦

株式会社 北信越地域資源研究所
代表 平原 匡 氏

みんなまで 3限目

話し合おう

これからの小浜の
話をしよう

子どもが大人になる頃、
このまちに新幹線がやってきます。
『こんなまちになったらいいな』
を一緒に考えましょう。

会場：働く婦人の家3階（小浜市大手町4-1）

平成30年

11.23 (金・祝) 13:30 ~ 16:00

※11/15(木)までに事前申込が必要です。

13:00 受付開始

☎ 0770-64-6067 北陸新幹線・総合交通推進室

✉ koutsu@city.obama.fukui.jp (氏名・電話番号・所属・人数をお知らせください)

主 催：小浜市 共 催：(一社)若狭青年会議所、北陸新幹線小浜・京都ルート小浜市民協議会

北陸新幹線
グッズも
もらえる!
※数量限定

11/15(木)
までに
事前申込

当日参加歓迎

新幹線講座

もっと、おばまの未来がみえてくる!

専門家に聞くこれから

多数の事例を元にする開通後のまち。
必ず変わる未来を"楽しみながら"準備する。
まちづくりのヒントがここに!



みんなで話す、みらいのおばま

学生、主婦、ビジネスマン、商業者、観光業者みんなに聞いてほしい、聞かせてほしいおばまの未来。
小浜の未来をつくるのは私たちです。
北陸新幹線を活かしたまちづくりを考える市民集会スタートです。

小浜に新幹線が通る日まで 最短 13年



小浜から 60 分以内の地域の居住人口

現在 27.1 万人 → 全線開業時 373.6 万人

138倍!

「新幹線を活かしたまちづくりに関する基礎調査結果」など新幹線に関する情報はこちら▶
<http://www1.city.obama.fukui.jp/obm/shinkansen>



- 内 容 -

1 講演

「新幹線は小浜をどう変えるのか」

青森大学教授、地域ジャーナリスト 櫛引 素夫 氏

2 講演

「新幹線駅前テナ商店街の挑戦」

株式会社 北信越地域資源研究所 平原 匡 氏

3 意見交換会

・アドバイザー

青森大学教授、地域ジャーナリスト 櫛引 素夫 氏

株式会社 北信越地域資源研究所 平原 匡 氏

・コーディネーター

(一社)若狭青年会議所 理事長 河合 誠 氏

4 参加者アンケート結果

3 意見交換会

※「質」は質問、「回」は質問に対する回答

質：「開業効果＝観光客の増加」ではないと私も思います。まちの連携が高まったり、市民力が向上することが大切だと思いますが、私たちが具体的にどのようなことに取り組んでいくと良いでしょうか。

回：新幹線開業効果については、単純に観光客の増加を挙げているまちは、少ないです。八戸では、知名度が向上してシビックプライドが高まったことが新幹線効果であるという話も聞きます。また、新幹線開業を契機に、市内の連携、調整能力が良くなったことという意見を聞くこともあります。

弘前市では、住民税の1%の予算で、市民がやりたい事業をプレゼンし、採択された事業を実施しています。市民一人ひとりがやりたいことを思い描き、その実現に向け、色んな人と連携して取り組んでいければ良いと思います。

質：私は高校生で授業の中で、小浜のまちづくりを考えているのですが、行政だけでなく、民間との協力が重要だと感じてきているのですが、具体的にどういう動きをとれば良いでしょうか。

回：とても重要なことだと思います。弘前の市民活動の事例ですが、やわらかネットという、行政職員だけでなく、一般市民が雑談できる場がありました。毎週木曜日に、商工会議所のサロンを開放し、地域の不特定多数の人が集まり、弘前について熱く語る場でした。例えば、新幹線開業に向けて、何かやりたい人、知恵を借りたい人、ビジネスを形にしたい人などが集まり、参加者と意見交換をし、アイデアを育んでいました。今は弘前大学に場所を移し、やわラボとして続いています。行政には行政の役割がありますが、行政だけだと基本何もできません。例えばお金を稼ぐことは、行政は得意ではありません。だから、行政と民間はタッグを組んでやっていかなければいけません。行政に「なんとしてくれ」というのは、NGワードです。「自分はこれがしたくて、ここまでやる。だから役所はこの部分で協力してくれ」というのがあるべきスタンスです。ところで、高校生にしかできないこともたくさんあると思いますが、いかがですか。

質：今ある小浜の魅力を発信したい。高校生の視点でパンフレットを作成したり、SNSに小浜の魅力を伝える動画を掲載したりすることを考えている。

回：すごくいいと思います。地元の人が地元の良い場所を発信していると、見る人は惹かれると思います。

やはり、民間活動は、とても重要だと思います。まちの中に知恵やお金をどれだけ

蓄積できるかが重要だと思います。新幹線開業で知恵やお金が流出していかないように、考えていかないといけないと思います。

質：以前は東京・大阪で仕事をしていてUターンしてきた身からすると、イオンがない、スタバがない生活にストレスを感じていて、新幹線開業したらイオンを誘致したら良いのではないかと考えていましたが、今回の講演で、新幹線は人と情報が介して全国とつながるツールであるということが理解できました。38分で大阪に行けるというのは大きなことだと思いますが、2時間に1本では不便だと思います。新幹線の本数を増やすにはどうすればよいのか。

回：ダイヤを考えることは、一石二鳥で、重要なことです。ダイヤを考えると、「このダイヤがあれば、新幹線通勤ができるかも」と具体的に望むダイヤがイメージされます。また、それに留まらず、ダイヤを考えることを通して、新幹線を活かした暮らし方や、その実現に何が足りないのか、という気づきが得られます。ダイヤを切り口に、新幹線を使いこなした市民生活を議論することは、良いことです。高校生やメディアも巻き込んで議論していくと良いかもしれません。スタバがないのは、残念ですが、代わりにできることはいくらかでもあると思います。例えば、今お勤めの職場を日本で1番おいしいコーヒーが飲めるカフェがある職場にしてはいかがでしょうか。市民一人ひとりが自身の暮らしをより良くするために、できることがたくさんあるのではないかと思います。

質：駅名が気になります。新小浜駅が思いつきますが、これでは地理的イメージが湧きません。「若狭おばま」という駅名が県外の人にも場所が伝わりやすいため、「若狭おばま駅」にしてはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

回：駅名は、ツボだと思います。駅名を巡って、こじれた町もあります。若狭という響きと地理的印象が合うので、個人的には「若狭おばま」は良いと思います。ただし、駅名論争というのは、とても盛り上がりますが、一方で対立構造が生まれてしまう可能性があるため、あまり揉めない形で決めた方が良いかと思います。

質：在来線との接続が重要だと思います。新幹線駅と小浜線の駅とは、少なくとも徒歩1～2分になるべきだと思いますが、いかが思われますか。

回：新幹線と在来線の接続は、大事な問題で、時間をかけて議論をすべき問題だと思います。上越妙高駅や飯山駅では、新幹線駅にあわせて在来線駅を動かしています。まだ開業までに時間があるので、駅周辺や在来線の在り方について、実現したい暮らしを念頭に、多くの市民で議論していくべきだと思います。

質：敦賀開業が4年半後に迫っていて、どう行動していけばよいでしょうか。

回：青森をみていて、新幹線開業を契機にして、お土産物のパッケージが劇的に洗練されたと感じています。金沢や富山も、ぐっとレベルがあがったと思います。そして、福井はこれからだと思います。例えば、敦賀開業時に、金沢以西のお土産物中で最もおしゃれなのは小浜のお土産であると言われるよう、今からそのゴールに向かって、小浜でお土産物のパッケージのレベルアップに取り組んでいくべきです。しかし、そのような戦略を立てずに敦賀開業を迎えれば、不戦敗です。

また、今はスマホで映えない情報は、選択されにくい状況にあります。映えない情報を載せていることは、逆効果にもなりえます。

ご当地商品のプロデュースというのは、とても重要です。新幹線開業してから北陸地域を見ていますが、富山の商品レベルは底上げされたように見えます。小浜も対象者や周辺トップランナーを把握し、取り組んでいくべきだと思います。

また、パッケージだけを良くしただけでは、魂は入りません。つくった人の背景にある暮らし・美意識・考え方・ライフスタイル・文化などが支持されて、「訪れたい」や「移り住みたい」と思ってもらえるところまで持っていければ、地域の持続性にもつながっていくと思います。

質：全線開業を30年後という表現がありましたが、私どもとしては2030年までの開業を目指している。やはり、30年後では遅いと考えています。新幹線は、バラ色の期待をもたせてくれるが、それをつかめるかどうかは自分自身にかかっています。関西をターゲットに、いかに新幹線効果を掴めるかが重要と考えています。

回：敦賀開業時から関西にアピールして、関西の方の頭の地図をどう描き変えていくか、考えていくと、打つ手が見えてくると思います。全線開業が本丸だとしても、敦賀開業時にいかに強い小浜の印象を残せるかが重要だと思います。頭の地図で、関西との距離がより近くなれば、観光でも移住定住でも結びつきやすくなると思います。

4 参加者アンケート

意見・提案

<新幹線とまちづくりに関すること>

- ・東には、成功例、失敗例がたくさんあるのだから、どんどん学ぶべきだと思います。コピペは、駄目だと思うけれど、小浜の人にとってルックイーストは羅針盤になると思います。コンサルに丸投げではなく、ここに住む人たちと楽しい話をしていきたい。
- ・新幹線の建設自体が目的にならないよう、その先を見据えた取り組みが必要だと思う。
- ・新幹線をまちづくりの手段として使い、多くの人の交流が生まれる中で、小浜がいいなと思ってもらえるまちづくりができると良いと思う。
- ・観光を前面に押し出した準備が必要と考えていたが、それ以外の部分でも考えるべきことは多いと感じた。
- ・新幹線開業は、まだまだ先だと考えていたが、今からできること、すべきこともたくさんあるのだと分かった。
- ・行政、民間できることのみ今後の計画に盛り込み、できない理想は盛り込まない
- ・開業してからの出店、起業しやすい環境づくりをしてはどうか。

<新幹線敦賀開業に関すること>

- ・新幹線小浜開業よりもまず先に敦賀開業に合わせたまちづくりの取り組みが必要であると感じた。小浜開業を成功させるためにも、まず敦賀開業を成功させる必要があると思う。
- ・「小浜開業時にこうしたい」ということを考えるのでは、まだまだぼんやりするので、敦賀開業までにこれをしっかりやっていくという目標を立てて、まず敦賀開業に向かって頑張る良いのではと思った。
- ・「敦賀開業時に小浜はどんな存在感を出せるか」が課題。資源・金が限られている中、特定の分野に集中して取り組む方が良い。
- ・当面の焦点は「対敦賀開業」に納得した。

<広域連携に関すること>

- ・新幹線開業は、若狭地域全体に良い影響を与えることだと捉えて、近隣市町と協力する必要があると強く感じた。

- ・小浜だけでなく、嶺南（若狭）の全体として計画することも必要と思う。
- ・他市町と連携して人が降りてもらえる街にすることが活性化につながると思う。
- ・敦賀駅から小浜～舞鶴～宮津～豊岡を結ぶ、特急電車が通れば、外国人観光客も呼べるのではないかな。

<話し合い・異業種交流に関すること>

- ・市民からの意見を出し合い、色々連携しながら、市全体が真剣に取り組むことが小浜の将来を決めると思う。
- ・今日の話で視野が広がった気がする。年齢、性別、職業も多様な方々が参加できる会を開いて、まちづくりのことを自分たちのこととして考えられるようになると良いと思う。
- ・まちづくりの当事者やまちづくりのプレーヤーは、新幹線がもたらす影響について理解できると思うが、まだまだ市民レベルでは理解できないと思う。もっともっと市民に対して、実情を話し、対話をしていくことが重要だと考える。当事者レベルでも、まだまだ知識不足な部分もあると思うので、例えば異業種交流会を積極的に行うなど、お互いに得意とするところを共有しながら考えていけたらと思う。
- ・商工者の方は、商工会や青年会議所が窓口ではありますが、一般の人が意見を言い合える、考えられる場所を作ってみるのも面白い。
- ・講師やその仲間の方のような人々との繋がりをもっと多くし、特に若年層の住民に対してこのような会を定期的に行うことを希望します。
- ・新幹線開業に向けたまちづくりというと、観光客の増加ということが一番だと今まで考えていたが、まちづくりを考えていく上で、まちの連携が深まる、市民力が向上するということが重要なことだと感じた。そのために、市民一人ひとりが新幹線開業に向き合い、様々な立場の人たちが話し合い、進めていくことも重要であると感じた。
- ・私は、住み暮らすまちが楽しいと最高だと思います。そのためには、まちに対して、ネガティブな考えがあると楽しくありません。是非、市民がまちを良くしたいと考えられる催しなどでおこしてほしい。そのうえで、各方面から積極的な柔軟な意見をくみとり、まちづくりに活かして欲しいです。
- ・縦つなぎ、横つなぎの議論をするべきと強く感じた。
- ・市民の意識をもっと高めて様々な階層からの意見、要望を抽出する場面が必要と感じる。
- ・民間企業間のネットワーク、行政と民間企業の連携が不可欠であり、行政だけではできないこと、民間企業だけではできないことを把握した上で、地域の人とともに考えていくことが大事だと感じた。
- ・各々が他人事ではなく、自分事としてとらえて考えることの必要性を感じた。駅名を

提案した方のように、自分がこうしたいという思いを持って取り組む人が増えるように、今日のような集会があると良いと思う。

- ・地区の集会で、「地域の未来を創造しよう。宝を見直そう」ということを加えて考えられると、面白い。

<市民主体のまちづくりに関すること>

- ・市民あっての小浜、新幹線開業だと思う。
- ・行政中心のまちづくりから、市民が主体となったまちづくりへ転換する絶好の機会であり、民間で実現可能なものを計画に位置付け、行政はあくまで後方支援に徹するべき。そのためには、計画作りから民間中心で行政は事務局として位置づけで、市の若者から識者まで英知を結集した計画作りの視点が大事。（弘前や飯山の取り組みなどの例を手本に。）
- ・「イオンが欲しい」「大企業を誘致しろ」と言う市民がたくさんいるが、気持ちはわかるがそんな安易なものではないと伝えたい。地元の店や人を使って欲しい。お店側も「こうなって欲しい」「ああなって欲しい」と受け身ではなく、工夫が必要かと思います。全体を見て、こうしていききたいという主体的な市民が増えればと思う。
- ・誘致頼みではいけない。地元の住民がどう動かすかが今後の街の活性化を左右する。
- ・新幹線を活かしたまちづくりに、未来を担う子供たちも何らかの形で携わっていければと思います。開業までに、子どもとともに新幹線について知り、期待を持ち、小浜の地が好きだと子どもたちが感じられるようになると良い。
- ・小浜の魅力は何か、どのようなことを強みとしてPRしていくのか、まずは住民である自分たちが知っていかなければいけないと感じました。

<強み・弱みに関すること>

- ・新幹線で京都まで19分、大阪まで38分でありながら、海山などきれいな自然と歴史があるまちというのが売りで、定住のまちになり得る。
- ・小浜の良さは、都会と違って競争という感じがしない、ゆったりとしたところなので、他県と競うのではなく、自身で輝く街にすれば自ずと人が集まると思う。
- ・小浜はまだまだPR力が足りないと思います。SNS中心社会になっているので、スマホで映える、気になるような広告・商品の開発が必要だと思う。
- ・小浜の知名度はまだまだだと感じているので、小浜の魅力を様々な面から発信していけたらと思った。
- ・知名度という点で、何か「小浜ブランド」を発信し、小浜へのイメージを持ってもらい

たい。

- ・問題点として、受け入れ先が確保できるか、PR 下手な点が挙げられる。

<駅・駅周辺、ルートなどに関すること>

- ・「若狭小浜駅」の発想は面白いと思われます。
- ・自然を計画的に残す素敵な街を追求したい。
- ・新幹線駅と離れた市街地や民宿等へのアクセスを考えなければならない。
- ・駅前だけでなく、市全体で新幹線効果を発現できるようにするために、どういう風に動いていけば良いか知りたい。
- ・新幹線で東京へ行くときに富士山が見えるというのも新幹線に乗る楽しみのひとつになっているので、小浜の路線の位置についても海が見えるという楽しみがあると良いのではないか。

<その他>

- ・私の実現したい暮らしは、「スマートでおしゃれな人々が気軽に來れて、その人たちと交流できる」「小浜を離れた人が新たなチャレンジのステージとして、小浜を選ぶ」「都会で経験したこと、これから小浜でやりたいことを一緒に考え行動できる」「子供が都会で暮らしたとしても週末は帰ってきて孫と自然の中で遊べる暮らすことができる」暮らしである。
- ・私の守りたい社会は、「地域の祭りが多くの人に知られて参加してもらいながら伝統を守れる」「自然の豊かさを都会の人から教えてもらい、私たち市民が環境を守る大切さを再認識できる」社会である。
- ・「定住することが故郷を思う全てではない」という視点が面白かった。
- ・他を受け入れる先進性を強化したい。
- ・配布資料の「新幹線開業がもたらすチャンス」の資料が、今後のまちづくりの方向性を決めると思う。
- ・もっと話を聞きたかったので、より長く時間をとってほしかった。

「こんなまちになったらいいな」を教えてください

<観光>

- ・小京都小浜と呼ばれ、京都とセットで足を運んでもらえるようなまち。
- ・北陸・関東・関西からの観光客が増加し、若狭地域の観光の玄関として、地域が発展する。
- ・人が降りる街にするために小浜市だけに目を向けるのではなく、他の市町と連携することが不可欠であると思いました
- ・都会の人からしたら「ちょうどいい田舎、癒されたいと思ったら、とりあえず小浜に行こう」となる町。
- ・関空から入ってくる外国人にとって、日本海の最初の港町である特性を活かして、日本文化・食文化などを体験していただけるまちにしたい。
- ・京阪神の人たちがいつでも小浜の食・海産物を食べに何回でも行ってみたい街になったらいい。
- ・県外の方や外国人が行ってみたい、もう一度行きたいと思えるまち
- ・京都・大阪の方に住んでいただける住宅・避暑地を目指してはどうか（大型商業施設の誘致も必要）
- ・「半日しか休みがなくても半日ある！お昼ご飯を食べに行こう！美味しいも食べ物を食べに行ける街どこかな？」で、小浜と、選ばれるまちになると良いです。
- ・新幹線駅、高速道、国道 27 号・162 号が近接するため、コンベンションシティを目指してはどうか。京阪神より混雑が少なく、景観が豊か。建物が少なく整備しやすいなど、優位性があると思う。
- ・小浜の自然・文化・食を活かした観光に力を入れ、交流人口を増やす。
- ・小浜の有する海、山、田を活かし、観光客に対しての体験プログラムを多様開発する。地元の業者は、その体験プログラムの収益によって、稼いでいく。（稼げるまち、観光地化）
- ・小浜に数ある文化遺産や歴史をもっとアピールして、海や山、川などの豊かな自然を普段味わうことのできない都会の人たちに、体験型の観光で子供からお年寄りまで、ファミリーで来ていただけるような、食べておいしい、遊んで楽しい、学べるまちになってほしい。
- ・「1度は訪れたい街」。観光資源は十分にある。あとはくつろげるカフェなどの施設と商業施設の充実。ここでしか買えないものなどをつくる。
- ・魅力が伝わり、もう一度来たいと思ってもらえる。（ポテンシャルは十分にある）

- ・地元の特産物や観光地目当てで来てくれる人が増える
- ・通過点にならないまち（県内外の人がわざわざ寄りたい、行きたいと思えるまちづくりが必要だと思います）
- ・人が降りるまちになればいいなと思います。そのために周りにあるものを誘致するのではなく、まずは自分のまちにあるものを育てることが必要であると思いました。
- ・どっちつかずが一番いけないので、これでいくというしっかりとした方向性が重要。全国でも小浜にしかない観光地（施設）を考えてはどうか。それがあれば必ず人は来ると思う。
- ・宿泊施設が充実している
- ・コンサート施設ができてほしいです。色んな芸能人や芸能人を求めて老若男女問わず来てもらえる町になると嬉しい。併せて、大型ショッピングモールもできると休憩場所にもなるし、良い。
- ・新幹線開業後は、幅広い世代の人が「行ってみたい」と思えるまちになればいいなと思います。

<移住定住>

- ・子育てしやすいまち
- ・働きやすい、住みやすいまち
- ・京阪神が通勤圏となることから若い世代が住みやすい街。
- ・都会の人の居住地（地元以外の人に住むことにより新しい何かが生まれるかな）
- ・関西方面から移住する人が多くなると良い
- ・大阪や京都への所要時間が短くなるので、小浜に住む、大阪京都へ働きに出るといったベッドタウンとしての発展が見込めるのではないかと思います。そのためには、多くの方が住みたい、住み続けたいと思えるまちになったらいいなと思います。
- ・福井市、京都、京阪神との通勤圏内となり、医師確保、企業マンの確保、居住地域となる。
- ・小浜で生まれた人たちが、小浜で生活できる街。都会で仕事をしても小浜から通える街。
- ・最近、県外の大学へ進学し、そのまま県外の企業に就職する人が増えています。小浜に戻りたい、住みたいと思えるような街になるといいなと思います。
- ・「移住・Uターンしたい街」。子育てしやすい街、土日祝日でも子どもを遊びに連れ出せる場、コミュニティの場、働ける企業の誘致。
- ・小浜の人が「小浜好きやから離れたくない街」「大学終わったら絶対帰ってくるまち」「ものすごく便利じゃないけど、住みたいまち」。

- ・「是非住みたい街、永く暮らしたい街、行きたい街に」小浜は、自然・歴史・食物・水・祭りなど資源は豊かな方。情報発信し、すばらしいまちづくりのチャンスにしていく。
- ・京都駅、敦賀駅周辺には開発する場所は少ないと思われる。新幹線小浜駅周辺では、遠敷を中心に小浜地区から旧上中町までの思い切った開発で定住人口が増えることを期待します。
- ・新幹線開通により、小浜の人口が増え、少子高齢化が抑えられる。

<産業>

- ・働くところがたくさんある、地元で働く人が増える。
- ・企業や工場が増え、子どもたちが将来小浜から出ていなくても十分、仕事が見つかるような街になって欲しい。
- ・時間短縮効果により、企業誘致が図れて、地域が活性化される
- ・小浜に京阪神から働きに来れる。通勤できる。日本海側に企業が集まる。
- ・1次産業が活気あるまち。1次産業が子供たちのなりたい職業にピックアップされる仕事に。親が子供に継がせたい、勧めたい仕事に。
- ・東京、名古屋、京都、大阪、広島、福岡とのビジネス交流が活発になり、営業マンの往来が盛んになる。また、グローバル化も進み、AIやITの発展とともに”つくる”力が大切となる中、この自然影響下にて、想像力創作力を中心とした企業が多く立地する地となる。
- ・新幹線が開業するのは自分の子どもが大人になるころ、もし小浜に残りたいと思ってくれたときに、魅力的な仕事がある場所にしたいです。また、「小浜は何もない」と嘆くより、今いる大人たちが楽しいエリアにしていくべきだと思いました。新幹線が来る来ないに関係ないことです。
- ・クリエイティブな職に関わる人たちが自由に起業でき、活躍できる社会。
- ・小浜のシャッター商店街を生き返らせる
- ・小浜駅商店街通りに空き店舗が多いので、大型スーパーに負けない地元ながらの商店をつくっていく。テナント料を市が援助するなど、若い人たちが働きやすい環境を。
- ・商店街も人があふれ、活気のある小浜になり、何の商売をしても盛り上がる街。
- ・新しい商業施設をどんといくつも作るのではなく、まず地元の商店や飲食店、企業が活躍できるようなまちになって欲しいです。
- ・駅前商業施設開設（コンビニや大手スーパー、百貨店の誘致）
- ・イオンモール等のある都会的（便利）なまちになって欲しい。

<全般>

- ・関西都市群（京都大阪など）とうまくマッチングした嶺南地域。
- ・若狭地域のみならず、滋賀県北部、京都府北部地域を含めた圏域の中核
- ・若狭にしかない、歴史・文化・生活などを活かしたまち
- ・今の生活を地域全体でアピールできて、その上で交流人口の増加する活気あるまち
- ・今の小浜の魅力をそのまま生かせるまちになって欲しい
- ・地元で頑張る人、もしくは、頑張っていこうとする人に対して、地域住民が関心を抱き、応援していく体制づくり（地域で頑張る人を地域住民が支える）
- ・開業までにもっと市民が自分の地域や市のことを学び、開業してから訪れてくれた方に、小浜は良い街だ、もう一度来たいと思ってもらえるようなおもてなしができる体制ができていたらいいなと思います。
- ・歴史遺産、食、祭など重層的で深みのある町になったら良い。その魅力づくりに力を入れ、人、モノ、企業が集まる街に。
- ・新しい技術、情報が集まるまちになって欲しい。（人の集まる場所には技術と情報が集まる）
- ・大都市圏との交流。
- ・京阪神を中心に日本の都市との時間が短縮されるため、都市住民との交流が密になるまちづくりをしたい。
- ・小浜が本来持っている美しい自然や、おいしい食べ物、歴史的建造物等を活かしたまちづくりをしてほしいです。
- ・古いものを新しい方法で楽しめるまち。
- ・新幹線が開業すると、1時間以内で行ける範囲が格段に広がるということで、多種多様な人が行き交い、様々な文化が行き交うまちになって欲しい。（昔は大陸からの玄関口として様々なものが行き交っていた歴史を活かして、昔のように様々な文化に対して寛容なまちになって欲しい）
- ・かつて港町であり、交通の要所であった、小浜ならではの歴史と特性。それは、人種も職業も背景も思想も違う多様な人々が行き交い、交流するまちであったことだと思います。地域活性化はそこに住む人間だけでなく、様々な人間同士の交流が生むと思います。新幹線開業を契機に小浜がかつての港町のような、多くの人が生き交い、受け止め、そこから新たなものも生み出せるようなそんな未来を歩むにふさわしいまちであって欲しい。
- ・小浜の良さは、ゆったりとした時間の流れを感じられ、自然豊かで人があたたかい所です。昔からある自然、神社、寺、お祭りの豊かな文化を残しつつ、他を受け入れる先進

性を高めていけたら良いと思います。

- ・一目で小浜という街がどんな街か伝わるようなまちづくり。
- ・田舎暮らしと高度な文化の暮らしが両立できるまち。
- ・「京都などの都会の良さ」と「海をはじめとした田舎の良さ」の両方を味わえる、個々人が楽しく生活できるまち。
- ・講義にもありましたが、小浜は小浜の味が出せれば！
- ・小浜が魅力的に発展する「新幹線と故郷の融合」。寄ってみたいくなる町、帰ってきたくなる町にしたいです。
- ・他の地域から小浜にしかないものを求められて、また小浜にきたいと思われるようなまち。
- ・賑わいのあるまち
- ・多様性のあるまち、共生のまち
- ・「自然と共存しているまち」。どこにでもある新幹線駅がある街（駅周辺）にはせずに、豊かな自然を極力残せるように。北川の魚や周辺の昆虫、植物等が残るといいです。まちなみも画一的になりすぎないようになればいいです。
- ・新駅を中心とする全く新しい街づくりが必要。現小浜駅対策は二の次で良い
- ・駅前を中心に県内外問わず、色んな人が行き交うまちになったらいいな。そして、まちに活気があふれることを切に願います。そのためには何か起爆剤となるものが必要ではないでしょうか。
- ・東京、大阪に限らず、北海道や九州まで、新幹線でつながっているところの人が集まる。
- ・若者が夢を持てるようなまちづくりをみんなで考えていくことだと思います。道路に比べて物流等の面で弱さが心配です。
- ・新幹線の小浜駅にきた人が不便なく、小浜・嶺南の行きたい所に行ける2次交通の発達した町。（降りてどこにも行けない、何もないは寂しい。）
- ・多くの史跡・名所があるにもかかわらず、効率的に回れる手段が少ないように思う。
- ・イベント施設（飲食はもちろん、よさこいや祭りなど、県外の人がイベント出来るホールや広場）
- ・各地区が持続可能となれば最高です。開業しても人口減少は止まらないと思うので、各集落のコミュニティが維持できるよう、定期的に家庭に人が訪れ、地域の方と一緒に活動できるといいなあ。親戚関係のない親戚ができるようなイメージです。
- ・スピリチュアルの面でも多くの人が住みたいまちとなる。
- ・必ずしも経済に依存しない、文化と居住をマッチさせる街づくりが必要
- ・空き家を活用

- ・昭和 40 年代のレトロなイメージが漂う景観、若者もお年寄りも元気なまち。平和な桃源郷。
- ・海の在る奥座敷であり、モノづくりの聖地、一次～六次産業まで、それぞれが輝く、多様性と統一性のある若狭小浜になって欲しい。